



ウミミドリの案内板と調査活動中の旗

任意団体 ポレポレ自然環境観察会

被災地福島から学ぶ能登半島・ 里海での絶滅危惧種 「ウミミドリ」の調査・保護活動

入門助成

1年目

調査研究

「ウミミドリ」の花開の時期だけでなく、
通年の生育環境の実態把握調査

32回

被災地福島県相馬市松川浦及び
新地町のウミミドリ生育地調査

1回

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

被災地福島県の奇跡的「ウミミドリ」の復活の実態と保護活動をととして、石川県志賀町上野海岸での「ウミミドリ」の保護活動を考える。

目標

上野海岸での「ウミミドリ」の花開の時期(5~6月)だけでなく、年間を通して岩石海岸での厳しい自然環境下での生育実態と漂着ゴミ等による生育環境汚染の実態を把握し、絶滅危惧種の保護の在り方を探る。

活動内容

「ウミミドリ」の通年現地調査をととして、その生育環境悪化は、大量の漂着ゴミによること以上に、台風や波浪で生育地(塩生湿地)の土壌浸食が深刻となっている実態が判明してきた。そのため、絶滅を回避するための生息域外・保全の問題がクローズアップされ、専門家等の文献調査、情報収集にも取り組んだが、安易な移植等には反対しないしは慎重な見解が多かった。今後、この問題に真剣に取り組む必要性がある。



志賀町上野海岸の
ウミミドリの開花

達成できなかったこと

地元志加浦小学校との連携と被災地の情報提供が出来なかった。①被災地では復興工事中であり、保護活動の実態が不明。②連携予定の小学校が平成28年3月末で廃校。

今後の展望

日本の南限である石川県志賀町上野海岸の絶滅危惧植物「ウミミドリ」の生息域外・保全対策に取り組む。

成果と工夫した ポイント



成果

「ウミミドリ」の花開の時期(5~6月)前後には、毎週ほぼ1回の頻度で現地調査(4月:4回、5月:6回、6月:4回、7月:3回)を実施、年間延べ32回の現地調査で生活史の概略を把握できた。

工夫

漂着ゴミによる生育環境悪化の把握をするため、気象情報で波浪警報・注意報が出た後に現地調査を行った。